

## 美術作品を通して言語活動！

“読書の秋・芸術の秋・スポーツの秋”など、爽り多い季節になり、学校でも各種行事が盛んに行われていることでしょう。美術展に向けた取り組みもその一つで、ぜひこの時期、作品を通して言語活動に意図的に取り組んでほしいものです。図画工作・美術科の表現や鑑賞の学習を通して、児童生徒の豊かな情操を育むことが大切です。そこで、作品をつくったり観たりするときによさや美しさなどを感じ取り、「発想や構想の能力」「鑑賞の能力」などを育成することがポイントになります。ぜひ、作品を通して右の図に示したような言語活動を適切に実施しながら学習活動を展開していくことで、図画工作・美術科で育成したい能力を育んでいきましょう。

材料や場所の特徴について考えたことを伝え合う

形や色、材料の感じなどを生かして表現し、話し合う

**図画工作・美術科に関わる言語活動**

鑑賞では感じたこと、思ったことを友だちと語り合う

作品などに対する自分の価値意識を批評し合う



## シリーズ！学力向上のための手びき「考え合う」編

学習課題に対して自分たちの考えを練り合わせ解決するのが【考え合う】過程です。この学習過程を通して、考えたことを自分たちでよりよい考えにしたり、自分の考えをさらに深めたりすることができます。また、そこで児童生徒の考えや意見を説明させ、交流させることで伝え合う表現力を伸ばすこともできます。また、学ぶ喜びも味わうことができるでしょう。教授型の授業にならないためにも、必ず1時間の学習の中に位置づけて取り組むようにしましょう。



<p><b>① 他者と交流し、考えを共有する</b></p>	<p>① 発言のパターンを教えて、全教科で使わせるようにしましょう。                  ★ まず、「結論」を一文で、「理由・根拠」は筋道立てて（順序よく）伝える。                  ② めあてに沿った具体的な視点を示すようにしましょう。                  ★ 内容と方法（「何を」「どのように」）を確認して話し合わせる。</p>
<p><b>② 多様な考えをもとに、自分の考えを広げ、深める</b></p>	<p>① 基本的な交流活動の展開をイメージしながら交流を進めましょう。                  ア 比較・関連づける イ 整理する ウ 帰着する エ 収束する                  ② 交流活動を進める上で、大切にしたいことは6つあります。                  ア まず友だちの感じ方や考え方のよさを見つけるようにする。                  イ よさを取り上げた後は、疑問点を尋ねたり納得いかない点について反論したりするように促す。                  ウ 解決できていない場合は、自分ができたところまでよいことを伝え、友だちの考えを取り入れるように励ます。                  エ 説明の不十分さは、友だちと一緒に考えて続きをつなげたり言い換えたりさせる。                  オ 説明や発表の順番などを工夫して、有効な課題解決につなげたり、全員が参加できた喜びを味わわせたりする。                  カ 新しく生み出された考えや活動そのもののよさについてふれ、交流することの意味を実感させる。</p>

私は、〇〇という考えです。  
 理由は、二つあります。  
 一つ目は、～と思ったからです。  
 二つ目は、…。

## 指示の“見える化”を…

学校訪問で、指示の出し方が大変すばらしいと思える場面を見ました。それは、『学習手順や作業内容を文字で見せる』ということです。我々教師は、どの学習場面でも言葉で子どもに指示を出しますが、集団を動かすために指示がうまくいかないと活動が滞ります。しかも、教室の中で子どもたちのさわぐ声が大きいと、先生の声までつい大きくなって、指示がよく伝わらず、先生のストレスもたまるという悪循環を起こしてしまいます。

そんな状況に陥らない方法が、指示内容の“見える化”です！視覚情報として内容が明確に分かり、活動の途中で内容を忘れても見返すことができるという点が大きなメリットですね。大きな声を出さずとも後ろまで伝わる良い方法だと改めて感じる場面でした。

学しゅうのながれ

1. じぶんで考える
2. 二人で話し合う
3. カードを書く
4. カードをわたす・もらう
5. ふりかえりをする